

## 若手と畜検査員のスキルアップの取り組みについて

大西栄二、辻泰司、今川哲

【はじめに】と畜検査員の検査に係る資質の向上は、ベテラン検査員によるOJT (On-The-Job Training) 以外は、アトラスや標本を用いた各々の自己研鑽によるところが大きく、配属された時期によって知識や技術に差が生じる傾向がある。また、いわゆる『団塊の世代』の職員の退職時期を迎え、経験豊富な職員からの技術の伝達と若手と畜検査員の教育訓練の充実が急務となっている。これらのことから、と畜検査員が経験による差のない検査を実施するために、発生頻度が減少している疾病の資料作成や、立体的な特徴が診断の鍵となり、写真だけではその特徴がつかみにくい疾病の液浸標本を作製し、スキルアップに取り組んできたので、その概要を報告する。

### 【材料及び方法】

- (1)対象疾病の検討：過去のと畜検査結果から、発生頻度が減少している疾病を抽出し、肉眼写真の観察中心の研修及び、液浸標本の観察による研修の必要性について検討した。
- (2)液浸標本の作製：(1)の検討の結果、液浸標本を用いた研修が妥当であり、検体の確保が可能と判断されたものについて液浸標本を作製した。なお、液浸標本は川崎医科大学現代医学教育博物館のホームページで紹介されていた臓器本来の色調に近い色で保存する方法を参考に作製した。
- (3)研修の実施：こられの検討結果をもとに、トキソプラズマ病等、肉眼写真の観察による研修が妥当と判断されたものについてはパワーポイントによる資料を作成した。また、液浸標本の観察による研修が妥当と判断されたものについては観察のポイントを記載した資料を作成した。

【まとめ】今回、と畜検査員のスキルアップを図るため、当所で実際に遭遇した症例の写真資料や液浸標本を作製し、経験談を採り入れた研修を行った。若手と畜検査員の中には、研修した症例に遭遇した事がなく、教科書での知識しかないような症例も多くあったことから、このような研修は実際の症例に遭遇した際、非常に有効であると思われた。

今後はこれらから得られた情報を活用し、さらなる研修内容の充実を図っていきたい。